

## Management Strategy

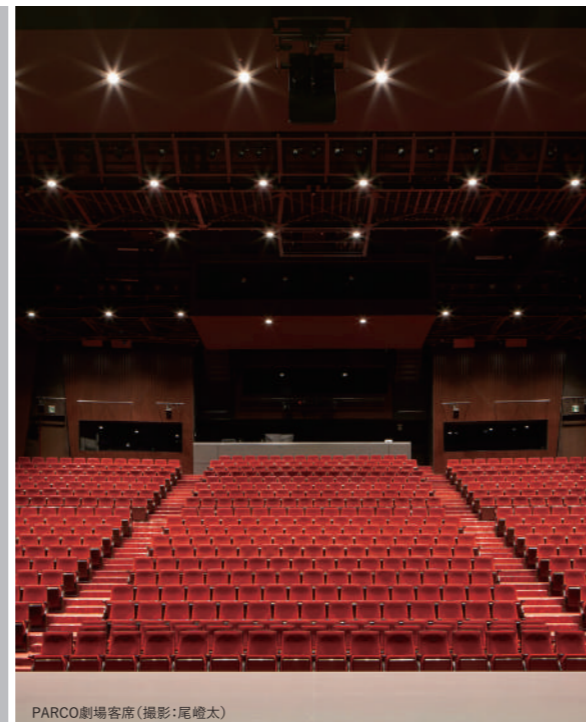
SC事業\_02 エンタテインメント

## その熱量は、深く、届く



「PARCO x GUNDAM COLLABORATION ITEM FAIR」ポスター

©創造・サンライズ ©創造・サンライズ・MBS



PARCO劇場客席(撮影:尾崎太)

コロナ禍で改めて感じたことのひとつは、日常にこころの潤いがいかに大切であるかということかもしれません。アートやカルチャーが放つ熱量は、こころを揺さぶり、時に背中を押してくれる存在でもあります。

パルコは創業当時から演劇や音楽、アートの分野で新しいカルチャーを積極的に紹介し、こころ豊かなライフスタイルを提案

してきました。魅力あふれる様々なコンテンツをプロデュースする一方、プロモーション展開にも積極的に取り組んでいます。文化的情報や時代を捉えたコンテンツ素材を多面展開したり、異種素材のコラボレーションをプロデュースしてヒット企画を生み出したりするなど、商業の付加価値を創造しています。



演劇

PARCO劇場を中心に、全国の劇場で演劇、ミュージカル、ダンスなどのプロデュース公演を展開。才能あふれるクリエイターや魅力的な俳優陣と良質な作品を制作しています。

- 『Birdland』の宣伝ビジュアルが「交通広告グランプリ2022 駅サインボード部門」で最優秀部門賞を受賞
- 『セールスマンの死』で主演の段田安則氏が第30回「読売演劇大賞」で最優秀男優賞を受賞

## 【事業拠点】

演劇 1拠点(渋谷)



映画

映画館「CINE QUINTO(シネクイント)」「WHITE CINE QUINTO(ホワイトシネクイント)」の運営や、映画の配給・出資・買付・制作を行い、日本映画・海外映画作品を広く紹介しています。

- パルコが第60回優秀外国映画輸入配給賞の「最優秀賞」を受賞

## 【事業拠点】

映画 2拠点(渋谷)



音楽

国内外の新進気鋭のアーティストを招聘し、良質なライブミュージックを提供するライブハウス「CLUB QUATTRO(クラブクアトロ)」のほか、ミュージックカフェ&バー「QUATTRO LABO(クアトロラボ)」を運営しています。

## 【事業拠点】

音楽 5拠点(渋谷/名古屋/広島/梅田)



ギャラリー・カフェ

展示会制作やギャラリーの企画・運営、アーティストやアニメキャラクターとのコラボレーションカフェ展開など、エンタテインメントに関する幅広い事業を他部門と連携して展開しています。

## 【事業拠点】

ギャラリー 6拠点(渋谷/池袋/名古屋/心斎橋/福岡)  
カフェ 4拠点(渋谷/池袋/名古屋/心斎橋)  
ほかPARCO各店の巡回など



出版

芸術書から実用書、文芸書まで多様な出版物を手掛けており、国内外の時代の最先端アーティスト、クリエイターの書籍や、イベントと連動した出版物の刊行など、幅広い展開をしています。

## PARCO劇場は開場50周年

1973年に開場し、時代のカルチャーを牽引してきたPARCO劇場は今年で50周年を迎えました。2023年は「PARCO劇場開場50周年記念シリーズ」として多彩な作品を上演しています。

パルコのイメージ・文化戦略の一環としてスタートしたPARCO劇場の大きな特長は、文化事業としてパルコが自らプロデュースを行っていることです。時代の流れを読みながら多くの才能とともに延べ1,300本を超える作品を生み出してきました。50周年である本年、日本を代表する演出家による作品や新たな才能とトライする企画、海外の気鋭の演出家作など、充実した作品をラインナップしています。

## コンテンツ・ファーストの時代へ

リアルでも、オンラインでも、どのくらい特別なコンテンツをご提供できるかがお客様にとっての価値を決定づけます。パルコはいまという時代を捉え、あるいは時代の先を行くようなエンタテインメントやカルチャーを発掘、開発し、社会に新たな価値を生み出し続けることが大きな役割であると認識しています。昨年、J、フロント リテイリングが子会社化した(株)XENONZのeスポーツ事業が生み出すエンタテインメントも、今後、パルコをはじめ、フロントリテイリンググループとして新たなお客様を創造する有力なコンテンツになっていくものと期待しています。

伝説の舞台『笑の大学』を  
三谷幸喜氏自身の演出で上演

PARCO劇場開場50周年記念シリーズ『笑の大学』

二人芝居『笑の大学』を2023年2月から3月にPARCO劇場で上演しました。パルコプロデュース作品として、1996年に初演。第4回読売演劇大賞で最優秀作品賞を受賞した本作は、1998年に再演、また、ロシア、韓国、中国、フランスでも翻訳上演された傑作戯曲です。

1998年の再演以来1度も日本で上演されていなかった伝説の舞台を、初めて三谷幸喜氏自身が演出し、PARCO劇場50周年という記念の年に四半世紀ぶりに上演しました。